



園庭のこいのぼりが春風にのり、悠々と泳いでいます。さて、新年度が始まり、一カ月が過ぎました。例年ですと新入園児さんの泣き声で園内がにぎやかになり、次第に保育園の生活に慣れ始め泣き声が笑い声が変わっていく時期です。今年は新型コロナウイルス感染症の影響

で4月8日以降、多くの皆さんに登園自粛をお願いしているところです。久留米市内でも目に見えない感染が拡大しつつある中で、保護者の皆さんも不安になっておられることでしょう。保育園でもできる限りの対策を整えています。手洗い、手指の消毒はもちろんのこと、職員はマスク着用、保育室は風通しをよくする、保護者の保育室への入室禁止、職員と保護者の会話は飛沫シート越しで、除菌液を使って手が触る所の拭き取り、夜中には機械を使って保育室をオゾン消毒しています。

保護者の方のお仕事の都合で登園している子どもたちが少人数いますが、安心安全に過ごせるように心がけています。又、家庭保育をお願いしている保護者のみなさんも、色々と工夫されながらお過ごしのことだと思いますが、感染を防ぐには人との接触をできる限りなくすことです。全国的に乳幼児の感染が報告されています。保護者の皆さんと子どもたちの感染リスクを予防するには、もうしばらく辛抱が必要なようです。感染防止のために、共にがんばりましょう。

5月の行事予定表

- 16日(土)園内研究会
- 19日(火)音研より日本太鼓指導(ばら組)
- 20日(水)避難訓練
- 21日(木)第1回内科健診
- 26日(火)誕生会
えいごであそぼう
(ふじ組)5/11、25(ばら組)5/18

行事は予定です。市による登園自粛要請の延長や感染拡大等が起きた場合、日程を変更する場合があります。(職員の園内研究会は通常通り行います)



ささやまっこだより

によきによきによきっ! たけのこが顔を出す!!

園庭のお宮さんの裏に小さな竹やぶがあります。数本の竹がのびているのですが、その間から“たけのこ”が5cm程顔を出していました。ちょうどその頃、ばら組さんもその“たけのこ”を見つけていたようです。しばらくして見に行くと、たけのこは1m程の高さになっていました。たけのこの生育力には驚かされます。ばら組さんがたけのこを見に来ていたのは、給食で使用するたけのこの皮むきのお手伝いをしたからでした。(4/8)

ばら組のクラスだよりも書かれていましたが、たけのこを初めてみた子もいたようです。ざらざらした手触りに何とも言えない匂い。「いつも食べている白い“たけのこ”はどこにあるのかな」と思った事でしょう。皮を一枚一枚剥いているうちに、見たことがある“白いたけのこが!”このたけのこは、次の日の給食の“たけのこご飯”となって、おいしくいただきました。



おたんじょうび おめでとう!

保育園では、毎月誕生日の子どもたちをお祝いする「誕生会」があります。命を授かって元気に過ごせている一年一年をみんなが祝ってくれます。その月の“ヒーロー、ヒロイン”なのです。そして、もも、ふじ、ばら組さんは誕生カード用に寄せられた家族のからのメッセージを聞きながら、うれしそうな顔を見せてくれます。お父さん、お母さんが大切に育ててくれた想いがひしひしと伝わってきます。誕生会の会場も“ほっこり”した雰囲気になります。また、当日は園長の友だちの『ぽんちゃん』がお祝いに来てくれます。いつもだとこのような感じなのですが、4月の誕生会は、コロナウイルス感染症予防のため、集会形式ではなく各クラスでお祝いをしました。お休みした4月生まれの子子どもたちには登園した時に“ぽんちゃん”が駆けつけます。



◇もも、ふじ、ばら組さんは、5月より制服の上着(トレーナー)の着用は、自由です。気候に合わせて衣服の調整をお願いします。



令和2年5月1日
篠山保育園 園長 足立善一郎

『子育てでいちばん大切なこと』

著 佐々木正美氏

「しつけはいつから、どうやって?」

電車の中で 子どもが騒いでいるのに知らんぷりの親を見て、
“あんな母親にならないぞ”、と決めていました。
しつけはいつから始めるのがいいの?
どうしたら上手にできますか?



しつけとはなんだと思いますか。手づかみではなく、スプーンを使ってごはんを食べるようにすることを、私たちは「しつけ」と言いますね。でも、世界には手づかみで食事をする民族もたくさんいます。日本人は大きくなったら、箸を使えるようにしつけますが、欧米人はナイフとフォークを使うようにしつけます。スプーンを使うのは「ねばならない」ことではありません。しつけで伝えようとしているのは「文化」なのです。国や民族によって文化が違うように、家庭によっても文化は違います。それぞれに価値観があります。

だから、一人ひとりしつけは違っていいのです。何をどう伝えたいかは、ご両親それぞれに価値観が違うのですから。文化を伝えるのがしつけです。ですからその受け皿ができた時期を見計らって、伝えればいいのです。オムツをはずすのも、洋服を脱いだり、着たりするのも、食事のマナーもなにもかも。

“できそうになったときは子ども自身がシグナルを出します。やってみようとするんです。”

そうしたら、手を添えて手伝ってあげればいいのです。もしやろうとしてできなかつたら、「できなかつたね〜」と言ってあげればいい。「すぐにできるようになるよ」と言ってあげればいいのです。自分からやろうとする前に「やっpegらん」と、お母さんがやらせたくなることもあるでしょう。でも、ちょっとやってみたら、まだ無理かどうかすぐにわかります。無理だったら「ゆっくりでいいよ」と、時期を待ちましょう。やってみたいという子どものシグナルを受け止めて、それを手伝うことがしつけの始まりです。